

施策1-3 確かな学力の育成

ポイント

- 生涯にわたって学び続ける基礎となる学力の育成
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実
- 学校内外の多様な人と連携した探究的な学びの推進



1 施策の方向性

- 急速に変化する社会において、子ども一人ひとりが幸せに生きるためには、自らが望む未来に向かって社会へ挑み、切り拓いていくことが不可欠です。この基盤となるのが、生涯にわたって学び続ける力の基礎となる学力です。
- 社会のグローバル化やデジタル化が進む中、これらの能力の重要性はますます高まっています。生成AIをはじめとした技術の発展により、単純作業や定型業務の多くが自動化される一方で、創造性や問題解決能力、コミュニケーション能力の重要性が増しています。このような社会に対応していくためにも、確かな学力の育成は極めて重要です。
- 家庭の社会経済的背景が学力と相関があることが明らかになっていますが、主体的・対話的で深い学びの実践は、社会経済的背景が困難な状況であっても各教科の正答率が高い傾向がみられます²⁶。そのため、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業革新が必要です。
- 一人ひとりの特性や発達段階、学習到達度などに応じて、指導方法や教材、学習時間などを柔軟に提供・設定する授業の実践・研究に取り組みます。これにより、一人ひとりに応じた学習活動や学習課題を自己選択する学びへの転換を推進します。また、児童・生徒が主体的に課題を発見し、クラスメイトだけでなく、異学年、地域の人、専門家なども含めた多様な人と協働しながら探究的な学習を行います。ICTを最大限活用し、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげます。これらの取組を通じて幼児期に発達した非認知能力を学童期以降にさらに伸ばすことにもつなげます。なお、子どもアンケートでは、勉強や先生、友達とのかかわりでこれからの学校に期待することについて、「自分の興味のあることが学べること」と回答した割合が高く、児童・生徒の取組の充実を求めており、施策の方向性と合致します。(110 ページ参照)
- 各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を充実させ、児童・生徒が自分の生き方や働き方について、深く考えられるよう支援していきます。

26 「令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料（国立教育政策研究所）」参照

2 施策の成果指標

	項目	基準値	目標値	
		R7	中間 R12	最終 R17
1	全国学力・学習状況調査平均正答率	+2.8%	+3%	+3%
2	全国学力・学習状況調査 児童・生徒意識調査(主体的に学ぶ力)	+1.2%	+3%	+3%
3	全国学力・学習状況調査 児童・生徒意識調査(探究的な力)	+1.1%	+3%	+3%

3 施策に連なる事業

NO	001	事業	個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実(指導室、教育支援センター)		
内容	<p>児童・生徒一人ひとりが、確かな学力を身に付けることができるよう、教科等指導専門官による授業研究などを通じて、区立学校教員の授業力向上に取り組みます。学習指導要領の改訂を見据え、新たな学びのあり方、情報活用能力の育成について、研究と実践を進めます。各校の特色を活かし、ICTの活用や教科横断的な学び、自己調整の学び、主体的に学習に取り組む基盤研究(教科センター方式²⁷)などに関わる研究主題を設定します。実践研究を通して、新たな指導方法や評価方法を開発し、その成果を区内全校に普及させることで、全体の学力向上をめざします。</p>				
年度	令和8年度		令和9年度		令和10年度
別 計画	<p>①全ての学校における、読み解く力を基盤とした板橋区授業スタンダード、板橋区授業スタンダードSの実施・推進</p> <p>②総合的な学習の時間等における探究的な学習の実施</p> <p>③区立学校教員の授業力向上につなげるための、教科等指導専門官による授業公開等の実施</p> <p>④研究奨励校における、学校の特色や実態を踏まえた研究主題の設定及び研究の推進、研究成果の区内学校への還元</p> <p>⑤研究主題に即した、大学や専門機関の研究者のアドバイザー招聘</p> <p>⑥授業革新や研究に関する、他自治体などの先進的取組の情報収集</p> <p>⑦授業革新や研究に関する、ポータルサイトの整備・充実</p>				

27 詳しくは、84 ページをご参照ください。

NO	002	事業	国際理解教育の推進（指導室、文化・国際交流課）		
内容	<p>子どもがグローバル社会でたくましく生き抜いていくため、「使える英語力」を身に付け、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度などを育成します。</p> <p>また、異文化に対する開かれた意識などを醸成するため、外国人が自国の文化・習慣を紹介したり、児童・生徒が自分で調べたりする出前講座を実施します。</p>				
年度別	令和8年度		令和9年度		令和10年度
計画	<p>①「使える英語力」を身に付けるための、デジタル教材・ICT機器の活用推進</p> <p>②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うための、ALTやオンラインの活用、少人数英会話の充実</p> <p>③希望する学校などに対する外国人ボランティア・JICAによる出前講座の実施</p>				

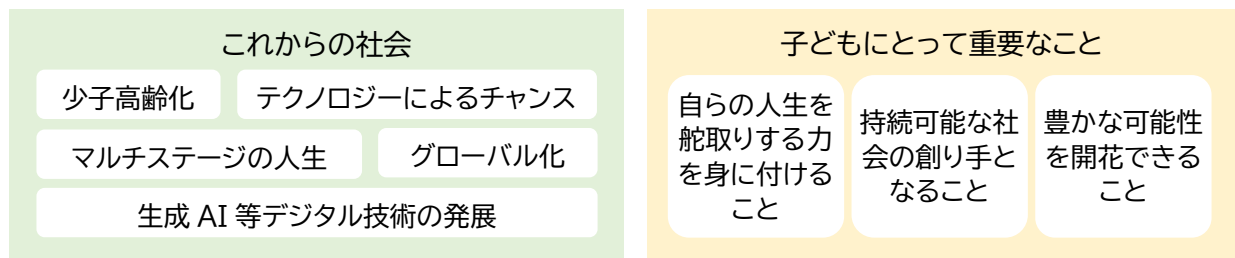
コラム③：板橋区授業スタンダードS

－かけがえのない個性を生かし、生涯にわたって学び続ける力の育成－







GIGAスクール構想により一人一台端末が整備され、授業の様子は大きく変わりました。一方で、生成AIの登場やグローバル化の一層の進展など、子どもを取り巻く社会もまた急速に変化しています。子どもには、激しい変化が止まることのない社会で、自らの人生を舵取りする力を身に付けることが求められています。

「板橋区授業スタンダードS」とは、児童・生徒が、自分に合った学習内容、方法、ペース、順序を自己選択、自己決定し、学びを自己調整しながら進める学習過程のことです。「S」には、児童・生徒が自己選択できる【Self】【Select】の「S」と、先生が児童・生徒の実態に合わせて選択する【Select】の「S」という意味が込められています。

子どもには、本来、「わかるようになりたい」「できるようになりたい」という学ぶ意欲が備わっていると考えます。一人ひとりがおもつ多様な興味や関心、かけがえのない個性を生かして、生涯にわたって学び続ける力を身に付けることができるよう、先生は、教えるべきことは確実に教えるとともに、児童・生徒の学びに寄り添って支援する授業をめざしています。



初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（令和6年12月25日中央教育審議会諮問）より

児童・生徒の姿	先生の姿
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div> <p style="text-align: center;">友達と学ぶ 好きな場所で学ぶ 本で学ぶ インターネットで学ぶ</p> <p>誰と学ぶか、どこで学ぶか、何で学ぶかなど、学習内容、方法、ペース、順序を自分で決めたり、試行錯誤したりしながら学びます。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">一斉指導 個別の支援</p> <p>教えるべきことは確実に教えるとともに、児童・生徒の学びに寄り添って支援します。</p>

コラム④：「実践の探究」と「人の育成」で未来を拓く

変化の激しい時代、一人ひとりの違いが輝く未来のために、板橋区の教育は挑戦を続けています。その鍵は、未来と今をつなぎ、人と人がつながり、学びを子どもへつなげるアプローチにあります。

一つは、未来の教育と今を「つなぐ」実践の探究です。

その最前線が、未来の教育のパイロット校とも言える「研究奨励校」。「MIRAI SCHOOL いたばし」の実現に向け、今日的な課題を研究し、板橋区の教育の充実・発展につなげるための制度です。ここでは、ICTを駆使した探究的な学びなど、新しい授業のあり方が日々研究・実践されています。

もう一つは、その実践を一人ひとりの先生へ、そしてすべての子どもへ「つなげる」人の育成です。

板橋区全体の教育力を高めるため、「教職員研修」が体系的に計画されています。キャリア段階に応じた研修や、日々の授業に活かせる授業づくり実践研修、一人一台端末の効果的な活用をめざしたICT研修など、専門性を高める多様な研修は、先生が互いにつながり、学び合う場です。このつながりを通して、先生一人ひとりが子どもの主体性を引き出す伴走者となることをめざします。

先進的な「実践の探究」と、それを支える「人材の育成」。この二つのアプローチが有機的に「つながる」ことで、板橋の教育の新しい未来を創り出しているのです。

